

令和7年度 札幌市災害時物資供給実動訓練 結果について

(1) 目的

- ・官民様々な業種の関係者の協力により、災害時の物資供給が行われることを理解する。
- ・物資集積拠点を使用した物資の受入から配送までの基本的な流れを確認及び課題を抽出し、「札幌市災害時物資供給マニュアル」をより使いやすいものへ更新する。

(2) 訓練日時

令和7年11月7日(金) 9:00~12:00

(3) 訓練会場

札幌市スポーツ交流施設 コミュニティドーム つどーむ
(札幌市東区栄町885番地1)

(4) 訓練参加機関 計18団体 約60人

イオン北海道(株)、NPO法人コメリ災害対策センター、(株)サッポロドラッグストア、(株)セコマ、(株)セブン-イレブン・ジャパン、(株)東光ストア、(株)ラルズ、(株)ローソン、(一社)AZ-COM丸和・支援ネットワーク、佐川急便(株)、ヤマト運輸(株)、サッポロビール(株)、日糧製パン(株)、(一社)ジャパン・レンタル・アソシエーション、トヨタL&F札幌(株)、北海道運輸局、北海道、札幌市

(5) アドバイザー

長年、自治体の災害時物資供給体制に携わってきた国立研究開発法人 防災科学技術研究所の宇田川 真之 客員研究員にアドバイザーとして、訓練の講評をいただいた。

(6) 訓練内容

大規模災害発生時に、国や協定締結事業者からの支援物資を避難所まで円滑に配送できるよう、物資集積拠点の開設及び支援物資受入・配送に係る実動訓練を実施した。

初開催となる今回は、物資集積拠点として位置付けている「つどーむ」を会場とし、協定締結事業者や関係行政機関が参加し、実際に車両や物資を使用して、物資の受入や搬出を実施したほか、事業者による物流資機材の安全講習を行った。

訓練では、物流専門家も参加し、物資集積拠点の開設のほか、支援物資の受入や備蓄物資の搬出を想定した荷捌き等を行い、支援物資物流体制の連携を確認し、理解を深めた。

今後も物流事業者及び関係機関と連携し、避難所に必要な支援物資を確実に届けるための訓練を重ね、有事の際を想定した対応力の向上を図る。

(7) 訓練後のアンケート調査

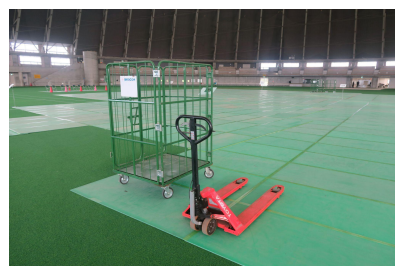
- ・訓練の大切さを感じた。実際に見て感じてとても参考になった。
- ・社内でも災害担当者を決めておく必要があると感じた。
- ・たまたま雨が降ったが、雪のイメージを持つこともできたので良かった。
- ・食品の種類は今回の訓練よりもっと多いので、出荷側の工夫が必要。
- ・車両の動線について見直しが必要。検品や誘導方法も改善の余地がある。
- ・指示を出す人など、役割を明確にしたほうが良い。

実動訓練当日の様子

事業者による安全講習
(フォークリフト)



集積拠点の開設



物資受入



車両の進入



荷下ろし



検品



仕分け



出荷準備



搬出

